

論文紹介：大学生・大学院生のスマートフォン依存傾向における退屈感と対人関係の関連

安齋 輝 (22211013ha@tama.ac.jp)

1. はじめに

本研究では、インターネット依存傾向形成要因に関する知見を手がかりに、スマートフォン依存傾向の構成要素と退屈感および対人関係の関連について検討した。今の時代スマホを持っている人がほとんどで、授業中などにもいじる人が多いため、スマホ依存についての論文を選んだ。

2. 問題と目的

スマホの普及により、ネットはより便利で手軽となり、日常生活から切り離しがたいものとなっているが、その手軽さ故に、ネット使用の制御が困難となっていることも問題として挙げられるようになり、ネット依存の問題はさらに深刻化していくと考えられる。

3. 方法

A 大学および B 大学の講義を担当する教員に無記名の自己記入式質問紙調査を依頼し承諾を得られた授業に出席していた大学生及び大学院生 382 名から質問紙を回収した。スマホ利用者 371 名を対象とし、未回答者を除く 342 名（男性 106 名、女性 236 名）を分析対象者とした。

4. 結果

退屈傾向尺度、対象関係尺度、スマホ依存傾向尺度、各変数の相関を使って分析していた。主に実害と考えられる日常生活への影響はスマホをいじれない欲求不満や事故コントロールなどが.40 以上の有意な相関を示した。

5. 考察

現代の若者にとって、仮想的空間は適度な対人距離を保つことのできる重要な空間であり、スマホ使用のメリットとなっていることから、従来とは違う意味を持っていると考えられる。また精神的健康に影響を与えられている。

6. おわりに

今ではほとんどの人がスマホを持っている。その中で依存しすぎると健康に悪く、影響があることが分かった。便利だが使う時間を減らした方がいいのかなと感じた。

7. 引用文献

厚見 由佳・安藤 美華代(2019). 大学生・大学院生のスマートフォン依存傾向における退屈感と対人関係の関連岡山大学教師教育開発センター紀要, 9, 47-56.

表1. 各変数の相関関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1 性別	—														
2 退屈傾向	-.167**	—													
3 親和不全	-.078	.539**	—												
4 一体性の過剰希	.039	.291**	.179**	—											
5 見捨てられ不安	.099	.493**	.504**	.475**	—										
6 自己中心的な他者操作	-.296**	.271**	.243**	.435**	.244**	—									
7 希薄な対人関係	-.110	.450**	.617**	.105	.337**	.192**	—								
8 平日平均操作時	.013	-.064	.042	-.007	-.029	.069	-.039	—							
9 日常生活への影響	-.044	.354**	.191**	.439**	.182**	.388**	.173**	.105	—						
10 スマホができないことへの欲求不満	.073	.298**	.114	.336**	.251**	.210**	.088	.276**	.550**	—					
11 自己コントロールの欠如	.175**	.339**	.226**	.258**	.334**	.200**	.145*	.056	.608**	.448**	—				
12 仮想的空間志向	.025	.258**	.232**	.324**	.098	.218**	.238**	.232**	.598**	.443**	.362**	—			
13 スマホの効用認知	.135*	-.060	-.145*	-.075	.034	-.138*	-.131*	.196**	-.079	.279**	.180**	.073	—		
14 高揚感	.197**	.173**	.105	.293**	.181**	.122*	.037	.113	.430**	.591**	.441**	.391**	.368**	—	
15 抑うつ・焦燥感	.001	.263**	.197**	.345**	.168**	.290**	.147*	.186**	.700**	.614**	.477**	.534**	.014	.426**	—

注) **p<.001, *p<.005